

日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社 様

個人情報の漏洩リスクを徹底的に排除し、かつ、システム開発時のテストデータ生成を効率化する。目的達成のために選択したのは、安全性・運用性・コストの課題を同時に解決する DB エース。

導入製品

DB エース データマスキングエディション

導入企業様プロフィール

日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社

本社 〒150-8586
東京都渋谷区恵比寿南1丁目15番1号
設立 1970年7月4日
資本金 72億9,750万円
事業内容 フライドチキンを初めとしたファスト
フード・宅配ピザ事業
従業員数 1,119人(2010年3月31日現在)

「おいしさ、しあわせ創造企業」を企業理念にケンタッキーフライドチキンとピザハットの世界的な2大チェーンとピザハットナチュラルを展開！安全な素材と手づくりをモットーに商品、サービス、アセット(人、設備)を通じ、お客様に『Yum! (おいしい笑顔)』をお届けしています。



情報システムユニット
マネージャー
平間義光氏

情報システムユニット
アシスタントマネージャー
上田正三氏

顧客の個人情報を
大切にお預かりするために

日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社(以下、日本 KFC)様では、顧客を対象としたキャンペーン企画・メルマガやクーポンサービス等の各種販売促進企画や、宅配サービス事業の拡大とともに、顧客の貴重な情報をお預かりする機会が増えてきました。日本 KFC 様はこれまでも顧客情報を守るためにその取扱いには細心の注意を払ってきましたが、昨今大きく社会問題となっている個人情報漏洩管理の強化を背景に、あらためて顧客情報の取扱いを見直し、運用をより厳格にすべく考えました。

見直しを進める中、具体的な対策の一つとして、データベース内に格納された顧客の個人情報の取扱いが目まぐるしくなりました。

システム開発時の
テストデータ生成の課題

新システムの開発時や機能追加の際には、運用テストのためのテストデータが必要となります。

テストデータを作成するには一般的に次の2つの方法が考えられます。1つはデータベースの構造を理解し1からテストデータを作り上げる方法、もう1つは本番データから機密情報を秘匿するよう加工し利用する方法です。それぞれに長所や欠点があります。前者は作り上げるまでに膨大な時間・コストが必要となりますが、実際の顧客データではないため、取り扱い上のリスクは低くなります。後者は前者に比べ作成コストはそれほどかかりませんが、実際の顧客データを利用している為、リスクが大きくなります。

この相反する課題を一挙に解決する手段として日本 KFC 様が選択したのが、『DB エース データマスキングエディション』でした。



工夫が必要だと考えました。

「これまでも個人を特定出来ないよう加工されたデータを利用していましたが、テストデータ作成時には極力人が介在せずに済むようシステムを自動化するとともに、開発現場で使用されるテストデータからは、個人を特定できない工夫が必要だと考えました。またデータベースに格納されている本番データへのアクセスは特別なIDを持った限られた社内の人間だけにしか許可しなければ、リスクは格段に低くなります。様々なツールを検討した結果、システムエグゼ社の DB エース データマスキングエディションの導入を決定した訳です。」

導入効果は運用負担軽減による
作業コスト・時間の削減と標準化ルールの実現

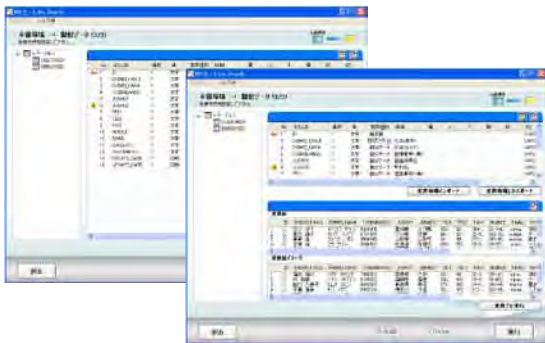
DB エース導入前まで日本 KFC 様では、システムの動作検証テストの際、各部署の申請ごとに都度テストデータを作成していました。個々のプロジェクトごとに異なる条件が提示されるため、作業の負荷も課題となっていました。

「運用担当者としては、一定の基準のもとにデータ作成できればという思いが本音でした。しかし、テストデータを作成するといっても、申請部署の指定条件が異なるため、作業は毎回異なります。ところが今ではシステム化することで、自動的に簡単にデータ作成ができるようになりました。

今回システムエグゼ社の DB エースを導入することで、運用担当者としては本当に喜んでます。」

多彩な機能に容易な運用 新規開発プロジェクトのスムーズな展開も期待

DB エースデータマスキングエディションは、GUI ベースの簡単操作のみでデータベースのスキーマを自動解析し、本番データ内の個人情報などを自動変換します。対象データのマスキングや、DB エースに登録された疑似データへの変換等、用途に合わせて機能の選択が可能。変更内容のレポート機能も備えている為、内部監査時の証跡の作成にも効果を発揮します。



GUIベースで簡単操作のDBエース

「DB エースデータマスキングエディションを導入して、まず最初に驚いたことは操作性の良さです。複雑な設定が不要で、導入当日から簡単にテストデータを作成することができ、さらに複雑な設定もカスタマイズ画面から出来ます。まずは、製品に慣れ、運用も含めた仕組み作りの中で、徐々にステップアップしていきたいと考えています。」

現在はまだ1プロジェクトでの展開ですが、運用方法も含め社内の全プロジェクトに展開し、更に高品質なシステムづくりに利用できるのではないかと考えています。」

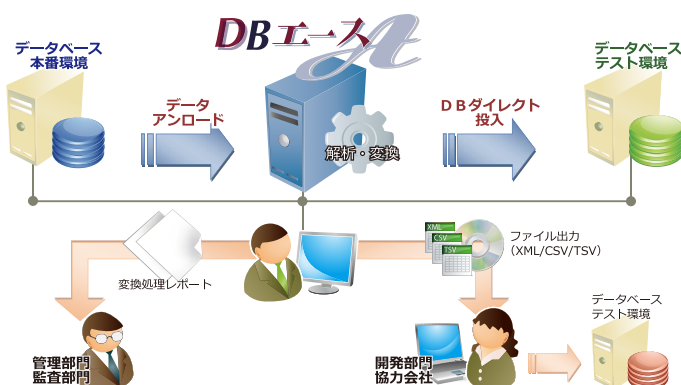
最大の導入効果は、 お客様の大切な個人情報漏洩リスクの低減

「当社は、ご来店頂くお客様のみならず、お届けケンタッキーやピザハットのような宅配スタイルのサービス、携帯やインターネットによる Web 会員のお客様など多岐に亘ります。お客様はもちろん様々なお客様情報を保持しており、そのデータベースは私共にとって貴重な財産です。このような大切なお客様情報の事故リスクを排除することは私共の使命と考えております。これからもお客様の貴重な情報をお預かりすることの重要性を認識し、情報の保護を徹底し続けたいと考えています。」

システムエグゼについての感想

「システムエグゼ社は日本の独立系 SI 企業ですが、国産の製品の品質や信頼性には満足しています。評価期間から実際の導入、社内展開、今後の運用面についての相談も含め、スピーディかつ的確な対応が、今回の導入を決めた一因となりました。データベースソリューションにおける強みを今後も活かした IT アドバイザーとして期待しています。」

DB エース データマスキングエディション概要



個人情報を自動的に秘匿化・マスキング

DB エースはデータベース内のテーブル情報を自動解析し、個人情報が含まれるカラムを特定して、本番データに近い疑似データを用いた秘匿化やマスキングを行うことが可能です。

簡単に高品質なテストデータ作成が可能

DB エースは数ステップの簡単な操作で、本番データから精度の高いテストデータを生成することが可能です。豊富な疑似データと、多様なデータ加工処理機能で、テーブル間の整合性を維持したリアルで高品質なテストデータを作成できます。

変換処理レポート機能による帳票出力

変換処理の対象テーブル、出力件数、変換方式、抽出条件などの詳細情報を報告書形式で帳票出力する事により、個人情報保護法や内部統制等への法制面の対策として威力を発揮します。

記載されている会社名、製品名、サービスおよびロゴはシステムエグゼおよび各社の商標または登録商標です。製品の仕様・性能は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

2010年11月現在

 SystemEXE

株式会社システムエグゼ

〒104-0033 東京都中央区新川 2-1-5 THE WALL6 階
TEL:03-5542-5592 FAX:03-5542-5594

<http://www.system-exe.co.jp>